

# 海洋技術開発講演会開催報告 「海洋立国を支える建設技術」

日建連は九月二十八日、東京・千代田区の如水会館で海洋技術開発講演会「海洋立国を支える建設技術」を開催した。

はじめに海洋開発委員会の武澤恭司委員長（東洋建設(株)社長）が、「本講演会は本年三月に開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためにこの日の開催となった。新型コロナウイルス

左／武澤恭司 海洋開発委員長  
左下／石沢賢二 日本極地研究振興会理事  
下／村山司 東海大学海洋学部教授



対応のため、建設業界も新しい働き方や仕事のあり方が求められている。皆さんは在宅勤務やWebでの会議等をすでに経験されていると思う。今後は内勤に加え、外勤の働き方も、新型コロナウイルスをきっかけとして積極的に見直し、業務の効率化や生産性の向上に取り組む必要がある」と挨拶した。

武澤委員長の挨拶の後、同委員会のもとで海洋開発に関する様々な課題について調査研究活動を行っている部会の中から次の二部会の活動が報告された。

まず、洋上風力事業化促進専門部会の宇佐美栄治副専門部会長が、洋上風力発電事業化の現状や取り巻く課題を説明した後、事業化促進に向けて「日本版審査基準の策定・設計審査手続きの合理化、基地港湾整備計画の明確化、事業

化促進に向けての環境整備をしていくことで事業化がより促進され、国内あるいは地域経済への波及効果が期待できる」とした。

次いで、空港部会の水流正人副部会長が、首都圏空港の機能強化に向けた取組みの一例として、「羽田空港は国内・国際ハブ空港として機能の向上が求められている。今後、滑走路増設を行う場合、新国際線旅客ターミナル整備や鉄道・道路等のアクセスの検討等が重要である」と羽田空港の将来展望と課題を述べた。

休憩をはさんで、今回は次のお二人による講演が行われた。一人目は、日本極地研究振興会理事の石沢賢二氏による「南極で暮らす知恵 ― エネルギーと建物―」。石沢氏は、南極におけるエネルギー確保の最新事情や温暖化の

影響等に触れた後、「現在の観測基地設置での問題はブリザードによるスノードリフト（雪の吹き溜まり）対策だ。近年、各国の基地ではスノードリフトを軽減するため、建物の下を風が通り抜ける高床式の建物を採用している」と説明。高床式で流動力学を取り入れた形態で地球環境に配慮したコンセプトの建物が共通の特徴になっていると述べた。

二人目は東海大学海洋学部教授の村山司氏による「イルカと話したい！ ― イルカの知能と言語能力―」。村山氏は鴨川シーワールド（千葉県鴨川市）で飼育されているシロイルカ「ナック」を通して行った物と記号、物と音を結びつける実験の結果から、イルカが人に近い言語能力を持っていることを立証した。「イルカは、人間と同じような過程で物の名前を覚えた。チパンジーやオウムにはできない」とし、「これからは動詞を教え、名詞と組み合わせさせて『エサ欲しい』というように文を作れるようにして、最終的には会話ができるようにしたい」との抱負を述べた。

# 日建連建築セミナー開催報告 「ふたつの予測不可能性」と「未体験な社会」

日建連は十月十三日、「日建連建築セミナー」を東京証券会館ホールで開催した。講師に建築家の内藤廣氏をお招きし、「ふたつの予測不可能性」と「未体験な社会」というテーマでご講演いただいた。今年度は当初、新型コロナウイルス感染防止対策として定員を設けて募集したが、東京都のガイドラインが変更されたため申込者全員にご参加いただける旨の連絡をしたところ、一七二名が参加した。



自身の作品をスライドで紹介する内藤氏。画面は「高田松原津波復興祈念公園」(2019年)

内藤氏は、富山県美術館や日向市庁舎など地方における公共施設を長年つくり続ける一方で、最近では東京都渋谷区の「渋谷駅中心地区まちづくり調整会議」の副座長として、渋谷駅前再開発の建築デザイン監修に関わっている。講演に当たり、「建築・都市・土木というコミュニティは常に様々な外力にさらされてきた。これから先は更に情報技術の革命と地球環境の変化という『ふたつの予測不可能性』と人類が歴史上海体験の超高齢化社会という『未体験な社会』に向き合わざるを得ない」とのコメントを事前に寄せていた。

「空間価値の追求」から  
「時間価値の追求」へ

冒頭に新型コロナによる建築へ

の影響について、一九一八年に世界で大流行した「スペイン風邪」を例にとり、建築の本質は変わらないであろうと述べた。地球環境の変化と情報技術の革新について、地球の気温の変動や米インテル社の共同創業者の一人、ゴードン・ムーア氏が提唱した「ムーアの法則」を例に挙げ、建築関係者は社会の変動を念頭におくべきと語り、超高齢化社会について「どれだけ大きなスペースが確保できるかといった『空間価値の追求』から、そこでどのような時間が生み出せるかという『時間価値の追求』へいろいろなものがシフトしていくのではないかと語った。

建設業界が「身支度」をして  
考え方を整理していく時期

不確実な未来について「大変なこ



セミナーの後半では尾崎勝建築設計委員長(左)との対談が行われた。



日建連のYouTubeチャンネルはこちら